



REPORT
01

釧路森林資源活用円卓会議

同会議が関わる釧路発の木製品では、
木製学習用机といすが釧路市内の全小学校で導入完了。
ウッドデザイン賞や北海道新技術・新製品開発賞を受賞した商品も多数。

多様な分野の
知見を生かし、
「森林都市」の
進化を促進

〈釧路森林資源活用円卓会議〉は、釧路市が林業・木材産業に関係する幅広い分野から専門職を集めて立ち上げた組織。供給側と需要側双方の合意を形成しながら森林資源の循環利用を進めています。

◆ **豊かな資源を生かす取組**

同会議が活動する釧路市は、約10万haの広大な森林面積と人口約17万人という都市機能を併せ持つ「森林都市」。同会議は、この森林資源と協力的なメンバーに恵まれた地域の特性を森林の再生や経済の活性化、雇用創出につなげるため、平成22年に設置されました。

検討課題は、森林施業やコスト削減策など供給側の「川上部会」と、地域材利用の拡大策など需要側の「川下部会」



に分けて関係者間の合意を形成し、議論をもとに「くしろ木づなプロジェクト」の名称で展開。その取組は、付加価値のある加工技術の検討から、新商品開発、人材育成まで多岐にわたります。

◆ **大盛況の「木づなフェス」**

同会議の取組を市民に紹介するため平成26年と令和元年に開催した「くしろ木づなフェスティバル」は、最も注目された取組のひとつです。今年度は前回よりも広い会場に、35の林業関係の企業・団体がブースを出展。木の遊具で遊べる「木育広場」や自由に木工作を楽しむ「トンカチ広場」などさまざまな体験メニューに、多くの家族連れが参加しました。また、ステ

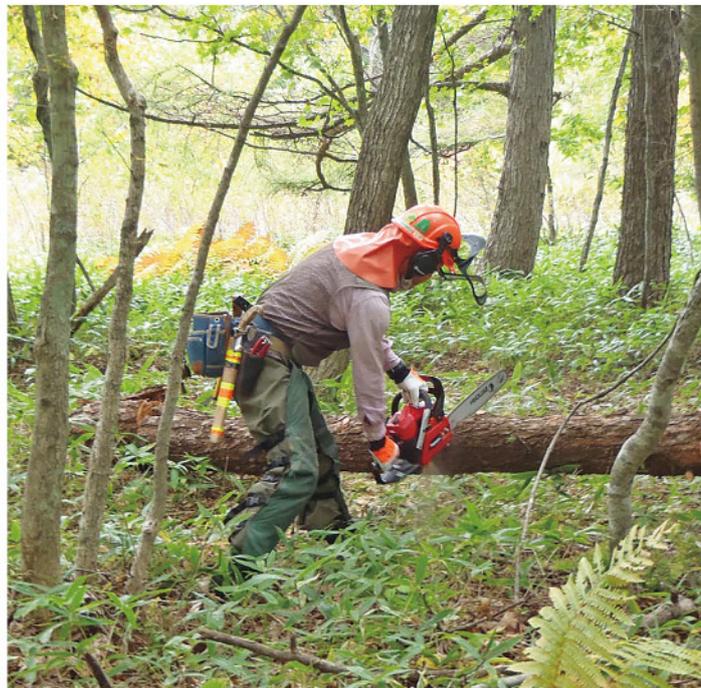
ージや屋外イベント広場では森林戦士ショーや高性能林業機械ハーベスターの実演など多彩な催しが行われ、2日間で4千人以上を集めました。

5年ぶりのフェス開催の背景には、森林環境税の創設にあたり、納税者である市民に森や林業、地域材活用の課題を改めて認識してほしいとの願いも込められていました。

◆ **新税の活用も検討課題**

しくみづくりの第1期、行動拡大の第2期を経て、平成30年度以降は新たに顕在化した課題に取り組み第3期と設定。今年度から配分になった森林環境譲与税の活用をはじめとする課題解決に向け対応を進めています。

作業を楽しみ、 山主を支え、 荒れ果てた森の 再生に尽力



〈間伐ボランティア「札幌ウッディーズ」〉の活動は、放置されていく森林の再生サポート。依頼を受けた山林をフィールドに、光と風が通り抜け小鳥が歌うすがすがしい森づくりを目指しています。

▼ 憂う仲間が出て設立

同団体の立ち上げメンバーは、北海道営林局や札幌森林組合が主催する講座で知り合いました。人の手が入らず荒れていく森林の現状を憂う者同士が「森を助けたい」という思いを共有し、平成13年の設立に至りました。

活動の中心は植樹・下草刈り・枝打ち・間伐などの森を育てる実作業。札幌圏10カ所ほどの山林で年間16回ほど行います。「暗かった森に光と風



が入り、作業後は森が健康を取り戻したように様変わりします」と富士本会長。「風や音、この活動の一番の魅力です」と語ります。

▼ 山主の意向を明確化

森づくりは山林を所有している自治体や個人などから依頼を受けてスタートします。打ち合わせを通じて、生産林、里山づくり、フットパス、危険除去といった森林整備の目的を明確化。山主の経済活動に関わらないことを条件に具体的な手段を提案します。間伐材は、薪材として積極的に利用し、できる限り林中に残さないようにしています。

▼ 汗だくの作業にも喜び

最も参加率の高い活動は春の薪割り。シニアは昔とった杵柄を披露し、若い世代は非日常感を満喫します。「皆で汗を流した後のお昼ごはんのおいしさといったら〜」と富士本会長。年回数回、森の中で焼き肉ランチなど同じ釜の飯を食べるひとときも、会員の結束に一役買っています。

50名の会員は年齢も職業も幅広く、最近ではウェブサイトを經由で入会する30〜40代の子育て世代が増え、平均年齢を押し下げられています。延々と行う枝払いや下草刈りといった汗だくの作業にも毎回会員の参加があるのは、環境保全に貢献している喜びがあつてこそ。今後は、会員所有の小樽市銭函「ワオーの森」に活動の軸足を置く予定で、新たな展開が期待されます。



間伐ボランティア 「札幌ウッディーズ」

10歳〜79歳の会員は平均年齢51歳。
平成28年環境省「地域環境美化功績者表彰」をはじめ受賞多数。
NPO法人苫東環境コモンズ主催の育林コンペ参画など他団体とも交流。

